

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	次世代排水システム刊行小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	
設置期間	2015 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、建築設備運営委員会傘下の「次世代排水システム小委員会」として 2009 年度より検討を続け、2014 年度には「次世代排水システム刊行小委員会」として執筆を行ってきた「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」を AIJES として完成・刊行し、普及を図ることを目的とする。</p> <p>初年度：・設計ガイドラインの最終案（第 4 次原稿・FDS）の完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連運営委員会の査読 ・パブリックコメントの募集 ・版下原稿（完成原稿）の作成 ・出版・講習会の開催 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし	
	<p>主査：坂上恭助（明治大学）</p> <p>幹事：細田幸宏（ブリヂストン） 松下幸之助（内閣府）、古賀誉章（東京大学）</p> <p>委員：石村修一（旭化成ホームズ）、臼井政夫（ジェス）、小寺定典（UR 都市機構）、須賀良平（クボタシーアイ）、摺木剛（丸一）、高津靖夫（芝工業）、谷信幸（アルモ設計）、早川和男（戸田建設）、真山淳哉（タキロン）、光永威彦（山下設計）、山本慈朗（日本管材センター）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2015 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	8 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. AIJES 「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」
講習会	1. 講習会「日本建築学会環境規準 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」 参加者数 96 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」パブリックコメント実施
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 設計ガイドラインの最終案（第 4 次原稿・FDS）の完成 →達成率 100%</p> <p>2. 関連運営委員会の査読 →達成率 100%</p> <p>3. パブリックコメントの募集 →達成率 100%</p> <p>4. 版下原稿（完成原稿）の作成 →達成率 100%</p> <p>5. 出版・講習会の開催 →達成率 100%</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 関連法令との適合性に関して、AIJES の刊行手続きにシステム化されていなかったため独自の対応を図ったが、計画に支障が出る可能性があった。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(~~中間年度評価~~・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本小委員会の目的である、AIJES「機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」の刊行については、次世代排水システム適用小委員会のサポートを受けながら、本小委員会と一体で準備をすすめた。昨年度のシンポジウム開催に続いて、今年度は関連運営委員会（建築設備運営委員会）による査読とその対応、パブリックコメントの募集とその対応を経て、9月に刊行承認、2016年2月24日に出版・講習会開催となった。</p> <p>以上、勘案して、総合的な目標達成度は100%程度とし、総合評価はAと自己評価した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。